

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月27日

【評価実施概要】

事業所番号	3270101003		
法人名	特定非営利活動法人まごころサービス松江センター		
事業所名	グループホーム まごころの家・さいか		
所在地	島根県松江市雑賀町386 電話 0852-59-5810		
評価機関名	特定非営利活動法人 コンティゴしまね		
所在地	島根県松江市西持田町362-42		
訪問調査日	平成19年10月19日	評価確定日	平成19年11月27日

【情報提供票より】(19年 9月 30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 1 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7人、非常勤 3人	常勤換算 6.5人 (夜勤含まない)

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,300 円

(4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86 歳	最低	77 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	釜瀬クリニック・おむら内科クリニック・吉川歯科クリニック
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地の閑静な住宅街の落ち着いた雰囲気のある民家を利用したグループホームである。安らぎのある、その時その時を充実して楽しく過ごせる生活の場となるよう、利用者中心とした運営が考えられている。家族等の面会も多く利用者が安心して生活をしている。職員は利用者と共に生活する場として考え、利用者を敬いプライバシーを守り、お互いに支えあいながら、常に笑顔と笑い声の絶えないグループホームになっている。また、理事長をはじめ、管理者、職員が一体となって職員の資質向上に向けて研修、研鑽が行われ、サービスの向上に努めている。研修会の報告など共有化が図られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の評価結果については、職員会議等で検討し、順次改善が行われてきた。入浴時間にしても改善に努力し、また、職員と一緒に入浴するなど信頼関係を深めている。注意の必要な物品の保管については夜勤職員等が確認し、日誌のチェック欄に記載している。地域との交流についても町内会に加入し、機会あるごとに理解を求める努力をしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者を中心として職員会議、ミーティング、申し送り時を利用して、前回の評価をふまえて今回の新しい自己評価について全員で取り組み、よりよい支援に向けての努力をしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は理事長、民生児童委員、福祉推進員、市職員、地域包括支援センター、家族等の参加のもとに4ヶ月に1回開催している。現在はホーム側からの報告について参加者から意見をj得ているが活発な意見交換まではできていない。ホームとしても開催回数を増やすことに苦心しており、今後に向けてあり方を検討してほしい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>グループホームへの意見は家族の訪問時、電話連絡など機会をjとらえて聴いている。日誌等に記載していたが、最近jは家族の意見簿となるノートを作成し、あらゆる面に活かし反映できるように努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、近隣世帯へも存在を伝え、理解を得て行事への参加、有事の時や災害時の協力体制が出来つつある。また、近隣のスーパーや喫茶店、理美容室の利用、学校帰りの子供たちの訪問などあり、地域での理解は深まりつつあり、この関係を維持推進してよいつながりになる事を期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としてグループホームを2ヶ所運営していて、「愛・技術・忍耐」という法人の理念により、地域の中で安心してその人らしく生活ができるように支援している。	○	法人の理念のほかに、地域密着型サービス事業所としてグループホーム独自の理念を加えるなど、利用者、家族、地域の方々に伝えやすい表現についても話し合ってみてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の理念については、具体的にその内容が理事長、管理者から職員によく説明し理解がなされ、共有されている。事務室にもその趣旨がきちんと分かりやすく掲示してある。また、職員会議等でも常に理念に関わる内容が伝達されていて、職員の言葉からもうかがえる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、行事に参加、ボランティアで開所されている曾田文庫で本を借りたり、そこでお茶をよべたりと地域に溶け込む努力がうかがえる。	○	地域とのかかわりの更なる広がりを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果は職員会議で話し合い、順次改善している。自己評価は管理者を中心として全員で検討して、具体的な運営、改善に活かし、また、職員の資質の向上に向けて努力している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はそれぞれの関係者等に参加を得て開催しているが、現在は4ヶ月に1回の開催状況で、ホーム側からの報告が多いが、参加者から防災等の提言も得ている。時間の都合もあり活発な意見交換というところまでは到っていない。	○	町内会に加入しているので自治会など近隣からも委員として参加してもらったりして、身近な意見など取り入れることも必要と思われる。利用者、家族にも会議内容を報告し、開催回数も増やしていくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市とのかかわりは運営推進会議が中心で、相互の情報交換が乏しい。	○	地域密着型サービス事業所として、グループホームの考え方や実情を伝え、市との連携を深めてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	法人便り、ホーム便りは3～4ヶ月に1回発行されている。金銭管理など月々報告の必要なものは毎月行われている。さらに家族に個別の情報については、別に手紙を添えたりして報告している。また訪問の少ない家族については電話等でも伝えている。	○	ホーム便りについては、写真のほかに外出の様子や誕生会の様子などの文章も添え、読みやすい「たより」になるよう工夫してほしい。
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族の意見聴取があらゆる機会を通じて行われているが、日誌に記録していたが他の記録と一緒にあって分かりにくい。今年度より各家族の意見、会話記録ノートを作成して、今後の運営や計画に反映させている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	法人は2ヶ所のグループホームを運営しているが、出来る限り職員の異動は行わない方針で必要最小限度の異動に留め、利用者、家族にダメージにならないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	理事長は管理者、職員の資質向上のために積極的に研修参加を勧め、個人的な参加も調整がつけば理解している。また研修会の報告も職員会議やミーティングを利用して報告し、ケアに取り入れている。今年度10月から法人内の共同研修会も開催し相互の資質向上を目指している。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	しまね小規模ケア連絡会に参加し、話し合いや研修の機会を持っている。他県の先進地のホームを見学し、良いところは積極的に受け入れ、サービスの向上に実践し活かす取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には納得した利用をしてもらうため、事前に他の利用者と食事をしたり、グループホーム内の行事に参加してもらい、納得してから入居出来るよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は出来る限り利用者が中心となる生活の場づくりを行い、食事、調理、行事と一緒に和気あいあいに行っている。また、利用者同士で自然に協力しあっている、職員もさりげなく支援しており笑い声が絶えない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ思いを言葉や表情から汲み取るようにしている。担当している利用者について年1回はセンター方式を利用し、何をしたいのか、誰に会いたいのかなど、思いを把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族から意見をもらい、日頃のかかわりの中から、担当職員、計画作成担当者が中心となり職員会議で意見交換し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	問題が発生した時や、状態変化があった場合は利用者、家族を交え職員の気づき、報告をもとに随時見直しをしている。定期的な見直しも話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況、家族の訪問などで把握したニーズをいかに活かしていくかを常に考えていて、通院の送迎や、帰省、墓参りなどにも職員で協力できることは気軽に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族の意向を聞き利用前のかかりつけ医で医療が受けられるよう支援している。他の医療機関を受診したり、突発的な時は家族に付き添ってもらっている。訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関と連絡を密に結んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームとしては、看護師を含めて対応する方針があり、家族も了解し同意書を交わしている。	○	利用者の状況の変化に合わせて、本人、家族の意向を確認しながら援助に当たってほしい。 医療機関との連携についても充実を図ってほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は穏やかな口調でさりげなく丁寧な言葉遣いで接していた。馴れ合いから言葉がぞんざいになったりするとき、さりげなく注意するなど、利用者の誇りを傷つけないように日頃から留意している。個人情報などプライバシーに関するものは事務室に保管され秘密保持について徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れは決まっているが、利用者本位に関わるように支援されている。介護度の軽い人は2階に住み、エレベーターを利用して自由に上り下りして居室で趣味を楽しんだり、居間で他の利用者と楽しく過ごしている。晩酌を楽しむ利用者もあり個人を尊重した支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に調理、盛り付け、片付けなど行っているが、台所の準備の様子が居間まで伝わり、参加できない人も匂いや湯気をまじかに感じられる。職員も三食とも同じテーブルを囲み、共に楽しみながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回は入浴できるようにしている。毎日の入浴希望は無いが、シャワーなど希望する人は可能である。夕食後の入浴はしていないが、夕食をずらすなどして取り組んでいる。研修に参加して一緒に入浴することの必要性を感じ、入居者に応じ一緒に入るなど前向きに取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事を中心に1人1人の力を発揮できるよう支援している。月に1回、専任講師による音楽・美術教室があり、その作品をホールに飾るなど励みになるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出し、地域の行事、散歩等日常的に出かけるようにしている。天気の良い日にはおにぎりを作り弁当持参でドライブに出かけることもしばしばある。車椅子利用の人も、家族の協力を得て出来るだけ出かけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室は施錠されていない。利用者が外出しそうな様子が見られたら、さりげなく声を掛けたり、一緒に出かけたりしている。外出傾向のある人にはその人の思いを汲み取り、出来るだけ自宅への外出などの試みがされ、安全面に配慮されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の防火隊総会や町内会に参加し、近隣の家庭などに理解を得て、有事の時は協力が得られる体制になっている。避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方など定期的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立、栄養バランスは昨年度1年間市の栄養士と一緒に検討し現在はそれをもとに、四季の食材を入れるなど変化をもたせている。食事量、水分量は個人記録のチェック表に記入し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こじんまりとした家庭的な雰囲気であり、玄関や居間には四季の花や野の花が飾られている。居間には利用者の作品も飾られている。利用者は居間や食堂に集まって過ごすことが多いが、座りやすい長椅子など置かれていて、ごく普通の家庭の居間のように過ごしやすい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	床に畳を敷き和室風を使用したり、カーペットを敷くなど利用者の好みの居室となっている。自宅で使っていたたんすなど持込み家族の写真、ペットの写真など飾り、落ち着いた居心地の良い居室となっている。		